

和食と世界の食サミット

フラッグシップ・アクション

実施概要及び成果

【実施概要】

- ユネスコ無形文化遺産「和食」をはじめとする「食」の魅力発信と交流を図るイベントを開催
- ① 4月26日～7月6日 特別展「和食～日本の自然、人々の知恵～」(京都文化博物館) ⇒和食の歴史・文化を紹介する特別展(和食展)を開催
 - ② 5月11日 和食展後援シンポジウム「京都の食文化と和食」(京都学・歴彩館) ⇒大学関係者による和食文化のシンポジウムを開催
 - ③ 5月14日～19日 京都 食の博覧会(京都高島屋S.C.) ⇒老舗料亭等と連携した特別弁当や府域の特選グルメの販売、出汁の飲み比べ体験、京の料理人講演会等を実施
 - ④ 6月15日 「おいしさでつながる世界」シンポジウム(大阪・関西万博E X P Oメッセ「W A S S E」) ⇒食のサスティナビリティや伝統の継承と革新をテーマとしたシンポジウムの開催
 - ⑤ 10月18日、19日 京丹波マルシェ2025/全国モンブラン大会2025(京都府立丹波自然運動公園) ⇒地域の食の魅力を発信するマルシェやステージイベントを実施

【実施成果】

- ① 来場者実績32,290人。世界で注目の高まる和食について、バラエティ豊かな標本や資料とともに科学や歴史などの多角的な視点から紹介した。
- ② 参加者数90人程度。和食(日本料理)と京都とのつながりを食材の提供(市場)と食材の調理(京料理)というふたつの視点から考えた。
- ③ 府内82店舗のグルメ販売、出汁の飲み比べなど「京都で開催する京都展」だからこそ実現できた品揃えや体験を提供した。
- ④ 国内外の万博来場者や関係者等150名が来場。テレビや雑誌等、国内外の約80媒体に取り上げられた。
- ⑤ 来場者数23,000人。地元事業者等による京丹波ならではのメニューや商品の販売や、全国各地の栗産地が集まり、今年No1のモンブランを決定する「全国モンブラン大会」等を実施し、地域の食の魅力をPR。

実施主体

- ① 京都府、京都文化博物館、朝日新聞社、MBSテレビ
- ② 和食文化学会、京都府
- ③ 京都食の博覧会実行委員会
- ④ 「食のサスティナビリティの追求と最高峰の食の提案」実行委員会
- ⑤ 京丹波町等

【問い合わせ窓口】

- ①～④ 京都府 商工労働観光部 観光室
- ⑤ 京都府総合政策環境部万博・地域交流課

実施場所

- ① 京都文化博物館(京都市)
- ② 京都学・歴彩館(京都市)
- ③ 京都高島屋S.C.(京都市)
- ④ E X P Oメッセ「W A S S E」(大阪市)
- ⑤ 京都府立丹波自然運動公園

実施時期

上記のとおり

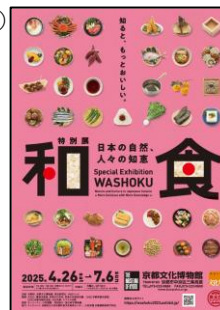
関連HP

—

その他

—

①



②



③



④



⑤



万博後の取組

- ・万博を契機に、世界の食文化との交流が深まるとともに、和食をはじめとした府内各地の食の魅力を多くのメディアにも取り上げられ、広く発信することができた。
- ・万博後も京都の食の魅力を継続的に発信し、「食＝京都」を定着させることで、誘客促進とブランド価値の向上を図る。